a. 居間　リフトのレールと間接照明を並行して走らせ、レールがインテリアに溶け込むように工夫している。

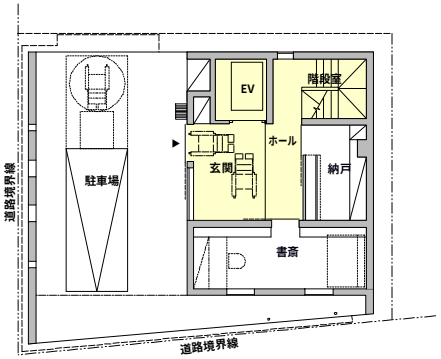
b.台所　見通しを確保しつつも、介護で手を離せないことが多く、散らかりがちなシンク廻りを隠すために、
収納でゆるく空間を仕切っている。

c.高床　お子さんは、座位保持では体に負担がかかるため、寝姿勢が多い。
ベッドでは介護しづらいため、床面より介護者の負担が少ない高床を陽当りのよい東南の角に設置している。

「かい楽の家」

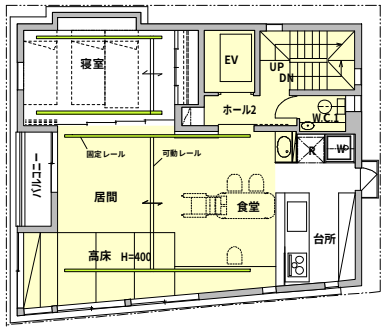
8歳のお子さんは、脳性麻痺による四肢麻痺等の障がいをお持ちで、
24時間の介護を必要としています。
この子にとってこの家は、家族、そして社会との接点となります。
私たちは家づくりを始めるにあたって
「介護者の負担を少なくすることで、
重度障がいのある子供とその親が心地よく、長く一緒に暮らせること」
を目標にしました。
そのための方針として以下の3つを立てました。

1. 将来の症状の変化を見込みながら、機械化できるものは積極的に導入し、
そうした機器と、住宅としての楽しさだったり、安らぎといったこととの調和を図ること。
2. 外部のスタッフを活用して親の負担を軽減しつつ、
プライベート空間とパブリック空間との使い分けが明確にできること。
3. 常に子供に注意が払えるよう、
限られた敷地に対して可能な限り生活が1フロアでまとまるようにすること。

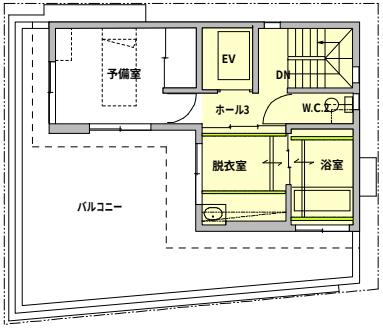


N

1階平面図　S=1/100



2階平面図　S=1/100



3階平面図　S=1/100

：パブリックゾーン

d. アプローチ
道路高さから1階の床高さまで
スロープで擦り付け、車と人が同じ
アプローチを共有して広く使えるようにしている。

e. 玄関
玄関内での車椅子の移乗が可能なように、
内外2台分が置ける大きさを確保している。

エレベーターは、将来的に体の硬直等で
ストレッチャーを使用することも想定し、
現時点で奥行最大のものを選んでいる。

f. 洗面台
介護者の衛生保持のため、
使用頻度の高い洗面台を居間に設けている。
入室時にスムーズに使用できるように、
入り口近傍に設置。

g. 寝室
天井いっぱいの間仕切り建具により、
日頃は居間と一体の広い空間として使い、
来客時は、建具を閉めることによってプライベートを守ることができる。

h. 介護リフト
レールがあるマスの範囲は縦横に動け、
移乗時にレールがついてくるので微調整しやすい
ＸＹレール式のものを選択した。

i. 水廻り
入浴介護は介護者の負担が多く、
事故の危険性も高いため、脱衣室・浴室とも
ＸＹレールを取り付けた。